

「桜の樹」

ニュー・スレター・vol.52

2025.12

岡倉天心記念
がん哲学外来
巣鴨カフェ

「桜」

葉っぱの彩り

岡ちゃん

長い夏も終わり、待ちに待った秋の訪れ。さつまいもや栗、柿やリンゴ、美味しい秋の味覚が山盛りです。12月になれば、あっという間にクリスマス。年越しにお正月まで、食べる行事が盛り沢山です。いつの間にか体がふっくらしてしまいそうです。家族や友人もしくはお1人で、食べられる幸せを感じて頂けたらと思います。

目で見て感じる秋のひとつに、街路樹などの落ち葉が思い浮かびます。様々な大きさと色とりどりの落ち葉は、見るたびに秋の心地よさを感じさせてくれます。ナンキンハゼの葉は、ハートの形のような丸い葉っぱで、緑から黄色、オレンジ、赤に変化し、エンジ色に紅葉します。モミジバズカケノキ(プラタナス)の葉は、黄色から茶色に変化、3~7つに裂けた大きな葉っぱが印象的です。どちらも街路樹として多く見られ、山や公園、歩道などを彩っています。私はその彩りに、カチカチに凝った肩の痛みを一瞬で柔らげてくれるような力を感じています。

樋野先生の面談で、「笑顔になる練習をするといいよ」と言われました。落ち葉を見ながら散歩をすれば、自然に笑える気がします。短い秋のひとつ、葉っぱの彩りを探しながら歩いてみたいと思います。



Photo by 岡ちゃん



Merry Christmas!

訃報

ニャンコ先生

今年も訃報です、11月22日同仁教会の職員・津々見さんがすい臓がんのため亡くなりました、享年64歳、彼は約10年前に職員になられ、石井さんが開設した丘の上のがんカフェ「シャローム」のスタッフとしても活動してくれました。開催の日には、会場設営から、樋野先生の本から大事な個所を抜粋して朗読もしてくれ、カフェ運営にご尽力くださいました。葬儀(29日終わりました)は身内の方で行うとのことで、先日お別れの面会をしてきました。朝一番だったため誰もいなく、お線香をつけながら見た、彼の顔は、がん治療のための手術、放射線、抗がん剤とがんを戦い抜き、すべてを使い果たしたような気がしました。結婚し、海外へ行った旅行のことを我々に楽しそうに話してくれたことが昨日のように思い出されました。残した妻みゆきさんの行く末が心配だろうとも、彼はキリスト教徒だったと聞いています、キリスト教では死は肉体のことであり、魂は生き続ける、とか、始まりであって終わりではなく、神が用意してくれた天国のあるところに行けるそうです、ですから彼が入信した時は、死への恐怖はなくなったかもしれません。仏教や他の宗教に言われる「輪廻転生」の考えはキリスト教にはないそうです。とかを線香の煙を見ながら考えてました、そして私は、私も妻も無宗教です、家には両親のための仏壇がありますが妻には戒名もなく位牌もありません、毎朝お線香をつけ、妻の写真に挨拶して始まります、私の死後は先に逝った妻の所へ行き、そこには我が家、私達と関係があった猫たち(3桁はいる)もいる楽園、そこへいつか行く日を楽しみにしています。

岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」

sugamocafe.sakura@gmail.com

<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来
がん哲学外来市民学会

代表 西原光治
編集 浦川 慶子



今年もお世話になりました